

令和元年11月12日
(2019年)

保護者のみなさま

吹田市立高野台小学校
校長 松元 美紀

平成31年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- *平均正答率は全国値を上回っている。無解答率が高い。
- *選択式、短答式の問題の正答率は全国値を上回っている。
- *記述式の問題の正答率は、全国値をやや下回り課題がある。
- *国語の学習への関心・意欲・態度は、全国値を下回っており課題がある。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- *「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする」は、全国値をやや上回っており、概ねできている。
- *「目的に応じて、質問を工夫する」は、全国値を上回っている。
- *「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」は、全国値をやや下回っており、無解答率が高く課題がある。

書くこと

- *「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」は、全国値を上回っている。
- *「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」は、全国値をやや下回っている。正答率も高くなく課題がある。

読むこと

- *「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」は、全国値をやや上回っている。
- *「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」は、全国値をやや下回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- *同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。
- *「文と文との意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書く」は、全国値をやや上回っているが、正答率は高くなく課題である。
- *「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」ことは、全国値を上回っており、概ねできている。

《国語科における成果や今後の改善点について》

- ◇日ごろからペア学習や小グループ学習を取り入れることで、自分の考えを伝えようとする姿勢、態度が身に付いてきている。
- 国語科に留まらず、情報を相手に分かりやすく伝えるために、図表やグラフを用いて効果的に書く機会を増やすことや、意図や目的に応じて適切な記述の仕方を考えることを習慣付けていく。
- 調べ学習に際して、調べて分かった事実から自分の考えを伝えるためにふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分捉えて書くことを意識付けていく。
- 叙述に沿って文章を読み進め、その文章の内容や構成の仕方に注意し、表現に即して要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読む学習の機会を増やす。
- 話し合い活動において、話し手の意図を捉えたり、自分の意見と比較しながら聞く姿勢や自分の考えを整理して伝える力を育む。
- 目的に応じて、本や文章の活用の仕方や引用、要約する部分が変わることを実感し必要な事柄や情報を収集・選択できる経験を増やす。
- 同音異義語など漢字の意味や正しい使い方を考えたり、さまざまな表現になじませることと言語への興味・関心を高め、語彙力を上げる。

●算数《概要》

- *平均正答率は全国値を上回っている。
- *選択式、短答式の問題の無解答率は低い。
- *記述式の問題の無解答率が高く、物事を論理的に説明し記述することに課題がある。
- *設問14問のうち8問が数学的な考えを見る設問で、概ね全国値を上回っているが、記述式の設問については課題が見られる。
- *算数の学習への関心・意欲・態度については、全国値とほぼ同じである。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

- *「複数の数量から必要な数量を選び、立式する」は、全国値を上回り概ね理解できている。
- *演算内容に着目して式を読み取ること、特に除法の式の意味理解に課題がある。

量と測定

- *資料の特徴や傾向を関連付けたり、場面の状況から単位量当たりを基にした求め方については、全国値を上回っている。
- *「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」は、正答率が低く全国値を下回っている。

図形

- *「台形」の理解は、全国値をやや下回るが、概ねできている。
- *「図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成すること」は、全国値を上回っている。

数量関係

- *棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取るとは、全国値を上回っている。

《算数科における成果と今後の指導改善点》

- ◇日ごろの習熟度別学習や少人数分割授業の成果が表れていると考えられる。特に、基礎的な計算については、朝学習や授業開始後の「頭の体操」プリント、放課後学習などの取り組みの積み上げの成果であると考えられる。
- 四則計算のきまりを確実に理解できるように、基礎基本の力の更なる定着を図っていく。
- 具体物を操作する活動を取り入れることで、図形の性質や構成要素に着目し、図形についての見方や感覚を豊かにする。
- 身近な生活に即した問題の提示や資料を活用し、収集した資料の特徴や傾向を関連付けて、思考・判断できるような学習を取り入れる。
- 数量や図形などを日常生活と結びつけて捉えられる学習を行う。
- 問題解決型学習において、適切な数や式・言葉を用い、筋道を立て根拠を明らかにし、自分の考えを記述したり、説明する活動を増やしていく。

2 児童質問紙の結果《生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向》

〔自分自身のこと〕

- * 「自分には、よいところがあると思う」（自己肯定感）について、9割の児童が肯定的な回答をし、ほぼ全国値と同じである。
- * 「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答の割合は7割にも至らず、全国値を下回っている。
- * 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」について、肯定的な回答が9割を超えているが、全国値を下回っている。
- * 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、全ての児童が肯定的な回答をしている。
- * 「人が困っているときは、進んで助けている」について、肯定的な回答の割合は、全国値をやや下回っている。
- * 「学校のきまりを守っている」について、肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を大きく下回っている。
- * 「外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知りたい」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっとしてもらいたい」と回答した児童の割合は、全国値を大きく下回っている。

〔家庭生活〕

- * 「朝食を毎日食べている」について、肯定的な回答の割合は、全国値をやや上回っている。また、全く食べていない児童はいない。
- * 毎日、起床時刻、就寝時刻が決まっている児童の割合は低く、全国値を下回っている。
- * 「家の人と学校での出来事について話をする」について、肯定的な回答の割合が全国値を下回っている。
- * 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」児童の割合は、全国値を下回っているが、家庭での学習時間は全国値を上回っている。
- * 「読書が好き」と回答した児童の割合は、全国値を下回っている。大半の児童が学校図書館や地域の図書館を利用しておらず、読書時間については、全く読書をしないと回答した児童の割合が高く、いずれも全国値を大きく下回っている。
- * 「新聞を読んでいる」児童の割合は、2割足らずであるが、全国値を上回っている。
- * 「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」について、肯定的な回答の割合は、全国値を下回っている。

〔学校生活・学習全般〕

- * 「コンピュータなどのICTを活用したい」と回答した児童の割合が全国値を下回っている。
- * 「授業で学んだことをほかの学習に生かしている」児童の割合が全国値を下回っている。
- * 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合は、全国値をやや上回っている。
- * 5年生までに受けた授業に関して、「自ら考え、自分から取り組んでいた」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していた」についての肯定的な回答の割合が、全国値を下回っている。
- * 学級での話し合い活動を通して、互いの意見のよさを生かし解決方法を決めたり、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した児童の割合は、全国値を下回っている。
- * 学校の授業以外に学習する時間については、2時間以上学習する児童の割合が全国値を上回っている。

3 課題及び今後の取り組み

- ◇教科に関する結果を踏まえ、授業のめあてやねらいを明確にし、振り返りの時間を設けることや資料を活用した学習、自分の意見をまとめ表現するなど児童の体験的な活動を増やし、児童が主体となる授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりを進めていきます。
- ◇これまで本校で取り組んできた朝学習、読書タイム、放課後学習、基礎基本タイムを継続するとともに、習熟度別学習や少人数指導、個に応じた指導の充実を図り、その効果を高め、基礎的な学力向上に努めていきます。
- ◇児童の「自己肯定感（自尊感情）」は、概ね高い傾向にありますが、否定的な児童もいます。「自己肯定感（自尊感情）」は、何かをやろうという意欲の源であり、まわりの人を受け入れて良好な人間関係を築くために必要なものです。自分の力を信じて失敗を恐れずに取り組み、やり遂げることを通して自信をつけるという経験や、自分自身の価値を他人と比較するのではなく、自分自身を認め、まわりの人からも認められるという経験を、一人ひとりが持つよう、成功体験や達成感を味わえるように、ご家庭と協力して取り組んでいきたいと考えます。
- ◇朝食を毎日摂取する事は習慣になっていますが、食事内容のバランスが取れているかも大切になります。朝食が摂れずに登校して、体調を崩す児童も見られますので、時間にゆとりを持ってしっかり朝食を摂るようにご配慮ください。
- ◇就寝時刻、起床時刻が決まっていない児童がおり、今後、生活リズムが崩れていく可能性もあります。また、健康面でのリスクや学習に影響を及ぼすこともあります。児童の自律的な生活態度の確立に向けて、ご家庭の協力をお願いいたします。
- ◇規則正しい生活習慣、宿題、家庭での計画的な学習や読書習慣の定着など、児童の自立と幅広い学習の機会をつくる指導を進めるために、各家庭での働きかけやご協力をお願いいたします。
- ◇家族との団欒はもちろんのこと、地域の行事などに参加する機会などを通して、児童のコミュニケーション能力を高められるように、ご支援をお願いいたします。

何事にも自ら進んで意欲的に取り組む姿勢や最後まで根気強くやり通す態度などは、成長とともに重要かつ必要な力となります。ご家庭におかれましても「家庭学習の手引き」なども活用いただき、基礎的な生活習慣や計画的な自学自習の習慣を身に付けていけるように励まし、働きかけてください。

また、社会の一員として、規律を守ること、規範意識はとても大切なことであり、必要不可欠なもので、日々の家庭生活、学校生活のなかで培われるものです。意識して育んでいきたいと考えます。

今後とも、本校教育活動に対し、保護者のみなさまのご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い致します。